

平成 20 年 8 月 20 日

市川リサイクルセンターを竣工

住友大阪セメント株式会社（本社：東京都千代田区、社長：渡邊 穰）は、セメントの原料として使用している建設発生土を安定的にセメント工場へ供給するため、千葉縣市川市二俣新町に市川リサイクルセンターを新設し、7 月 10 日に竣工しました。

1. 設備導入の経緯

当社では、土木工事や建設工事等により発生する建設発生土を、セメントの原料として利用するため、主に中間処理業者を通して受け入れをしております。但し、建設発生土は発生が不安定なため、これを安定的に調達することが課題でありました。今回市川リサイクルセンターの新設により、排出現場から直接当センターまで、建設発生土を受け入れることができるようになります。

市川リサイクルセンターの運営管理は当社グループ会社である泉工業株式会社へ委託しており、建設発生土の受け入れから、セメント原料への改質に至るまでの全業務を同社にて行います。改質された建設発生土は最大 1 万 5 千トンの保管が可能で、これによりセメント工場へ安定的に供給する体制も整いました。

総工費は約 5 億円で、現在建設発生土のリサイクル量は年間約 80 万トンですが、当センターの新設で、さらに約 10 万トン以上の増加を見込んでおります。



（市川リサイクルセンター全景）



（建設発生土ヤード内部）

2. 市川リサイクルセンターの特長

主に首都圏の建設現場等から当センターへ運び込まれた建設発生土は、分析機器で成分を分析したのち、生石灰と混ぜ合わせ水分調節し、選別機で異物やコンクリート塊を篩い分け、磁選機で金属を取り除くという工程を経て、セメント原料として改質します。

改質した建設発生土は隣接するバースから船舶で赤穂工場、高知工場、八戸セメントに、また一部はトラックで栃木工場へと各工場に出荷します。

3. 最後に

住友大阪セメントグループは、事業拡大をテーマの一つとして掲げた 2006 年度～2008 年度中期経営計画を実行中です。市川リサイクルセンターは、その一環として、建設発生土の安定供給により工場でのリサイクル量を拡大させるとともに、当社グループで建設発生土の改質ができる設備も導入致しましたので、リサイクル収入の増額が見込まれます。

また市川リサイクルセンターで改質しました建設発生土は、全量を当社グループのセメント工場で原料として安全にリサイクルしますので、建設発生土の排出元様におかれましては安心して委託して頂けるものと考えております。

4. 本件に関するお問い合わせ

住友大阪セメント株式会社

総務部 IR 広報グループ

TEL：03-5211-4505

FAX：03-3221-4651

以上